

## 養殖トラフグとマダイにおける粘液胞子虫性やせ病原因虫の検出状況

堅田昌英\*・奥山芳生・小久保友義・中西 一

和歌山県水産試験場

(2015年7月8日受付)

**要旨**—養殖トラフグおよびマダイにおける粘液胞子虫性やせ病原因虫について、2014年6月から1年間にわたってPCR法による検出状況を調査した。トラフグでは、6月下旬から重度の発病が見られ、*Enteromyxum leei*が検出されたが、15°C以下の低水温期には潜伏感染の状態になることが示唆された。一方、*Sphaerospora fugu*は7月下旬から翌年6月まで継続して検出され、2月から5月の軽度の発病の原因になることが示唆された。マダイでは、低水温期の1~2月に*E. leei*によるやせ病が発生し、病魚の平均肥満度は22を下回った。トラフグ養殖生簀とマダイ養殖生簀は近接していたにも関わらず、トラフグからマダイへ容易に水平伝播が成立しなかったことから、マダイはトラフグに比べて*E. leei*に対する感受性が低いのではないかと推察された。

**キーワード**：粘液胞子虫性やせ病, *Enteromyxum leei*, *Sphaerospora fugu*, トラフグ, マダイ

\*連絡者

E-mail: katata\_m0002@pref.wakayama.lg.jp

〒649-3503 和歌山県東牟婁郡串本町串本 1557-20

和歌山県水産試験場

英語タイトル : Detection of enteric myxozoans causing the emaciation disease of cultured tiger puffer and red sea bream